

C-60 ダーツに関する研究 (第9報)
——ダーツ線の位置に関する分割の基本問題に
ついての実験的考察——

高知女大家政 市川 一夫
村田 菊子
高知学園短大 ○堀内紀久子

1. 戦後の画期的な経済発展によって、衣食住事情は改善され、若い人の身体は素直にすくすくと発達してきている。その結果女性では、細身の服が好まれるようになってきた。それというのも身体の曲線に自信を持つことができるようになり、その美しさを積極的に現わしたいという考え方が多分にあるからだと思われる。

従って、胸部より腰部にいたる部分のダーツのとり方についても、ダーツ線のいれ方によって肉眼に影ずる感じが変ってくるので、おろそかにできない。筆者等はダーツ線挿入位置によって、どのように変化するか。基本問題について実験的考察を行なってみた。

2. 長方形の白紙に水平線及び垂直線を等間隔に1本、2本、7本と、不等間隔に2本入れた場合につき、これを眼の高さにおいて、これより1米、2米、3米とはなれて、その線間の長さを目測で測らせる。但しその順序は無作為に行なう。

3. 水平線を入れる場合については、平均値からすれば、判定距離が遠くなるに従い、一般に小さく見える。1本の場合、近くでは実大より大きくみえ、水平線の数が増せば小さくなり、更に多くなると反対に実大より大きくみえる。

垂直線を入れる場合についても、同じような傾向がある。